

四百年の歴史に新たなパワースポット

足助

ライトアップされた飯盛山



“香嵐溪”の由来は、1930年に飯盛山にある香積寺から吹き降ろす嵐気が清々しいということから命名された。“紅葉の歴史”はさらに古く、1630年代が始まりだといわれており、400年もの歴史がある。

古い町並みとの共演

待月橋

愛知県豊田市北部にある“香嵐溪”は、11月には約4,000本のもみじが紅葉し、夜には飯盛山全体がライトアップされ、幻想的な雰囲気醸成す紅葉の名所である。しかし、紅葉のシーズンが過ぎると、足助町は賑わいを失ってしまう。

そこで地元の寺社と協力をし、ウォーキングを楽しんでもらうための山道・街道の整備をしたり、観光バス会社と協力をし、観光に訪れた人がレトロなボンネットバスに乗って町並みの散策を楽しんでもらえるような活動を行ったりして、新たな魅力を発信している。



1966年式のボンネットバス

新たなパワースポット

香積寺本堂

街道沿いの町並みは、短冊状の敷地に主家を建て、その後ろに離れ座敷や土蔵などがある。「マンリン小路」「からくりの小路」「海老屋小路」などたくさんの小路があり、蔵や昔ながらの建物に挟まれ、下見坂になっている小路もある。この情緒溢れる町並みは、2011年に愛知県で初の国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、足助町では、その後も地元の方と一緒に様々なイベントを企画している。また、豊田市内には縄文時代(約3,500年前)の遺跡が多数存在しており、足助町で発掘された“今朝平(けさだいら)遺跡”は、多数の土偶が出土したことで有名である。さらに近年、若者の中で流行っている“縄文女子”とコラボし、町のいたるところに土器や土偶を置き、足助町の人々は“新たなパワースポット”となるよう期待している。

マンリン小路

